

第四 元勳優遇ノ爲大臣ノ禮遇ヲ賜ハリタル者

第五 元帥、國務大臣、宮内大臣、内大臣

第六 朝鮮總督

第七 内閣總理大臣又ハ樞密院議長タル前官ノ禮遇ヲ賜ハリタル者

第八 國務大臣、宮内大臣又ハ内大臣タル前官ノ禮遇ヲ賜ハリタル者

第九 樞密院副議長

第十 陸軍大將、海軍大將、樞密顧問官

第十一 親任官

第十二 貴族院議長、衆議院議長

第十三 勳一等旭日桐花大綬章

第十四 功一級

第十五 親任官ノ待遇ヲ賜ハリタル者

第十六 公爵

第十七 從一位

第十八 勳一等

一 旭日大綬章

二 瑞寶章

三 寶冠章

第二階

第十九 高等官一等

第二十 貴族院副議長、衆議院副議長

第二十一 麝香間祇候

第二十二 侯爵

宮中席次令

三百八十五

第二十三 正二位

第三階

第二十四 高等官二等

第二十五 功二級

第二十六 錦鷄間祇候

第二十七 勅任待遇

第二十八 伯爵

第二十九 從二位

第三十 勳二等

一 旭日重光章

二 瑞寶章

三 寶冠章

第三十一 子爵

第三十二 正三位

第三十三 從三位

第三十四 功三級

第三十五 勳三等

一 旭日中綬章

二 瑞寶章

三 寶冠章

第三十六 男爵

第三十七 正四位

第三十八 從四位

第四階

宮中席次令

第三十九 貴族院議員、衆議院議員

第四十 高等官三等

第四十一 高等官三等ノ待遇ヲ享クル者

第四十二 功四級

第四十三 勳四等

一 旭日小綬章

二 瑞寶章

三 寶冠章

第四十四 正五位

第四十五 從五位

第五階

第四十六 高等官四等

第四十七 高等官四等ノ待遇ヲ享クル者

第四十八 功五級

第四十九 勳五等

一 雙光旭日章

二 瑞寶章

三 寶冠章

第五十 正六位

第六階

第五十一 高等官五等

第五十二 高等官五等ノ待遇ヲ享クル者

第五十三 從六位

第五十四 勳六等

宮中席次令

- 一 單光旭日章
- 二 瑞寶章
- 三 寶冠章

第七階

- 第五十五 高等官六等
- 第五十六 高等官六等ノ待遇ヲ享クル者
- 第五十七 正七位

第八階

- 第五十八 高等官七等
- 第五十九 高等官七等ノ待遇ヲ享クル者
- 第六十 從七位
- 第六十一 功六級

第九階

- 第六十二 高等官八等
- 第六十三 高等官八等ノ待遇ヲ享クル者

第十階

- 第六十四 高等官九等
- 第六十五 奏任待遇
- 第六十六 正八位
- 第六十七 功七級
- 第六十八 勳七等

- 一 青色桐葉章
- 二 瑞寶章
- 三 寶冠章

第六十九 從八位

第七十 勳八等

- 一 白色桐葉章
- 二 瑞寶章
- 三 寶冠章

○內閣官制(明治二十二年勅令第百三十號、改正四〇年第七號)

- 第一條 內閣ハ國務各大臣ヲ以テ組織ス
- 第二條 內閣總理大臣ハ各大臣ノ首班トシテ職務ヲ奏宣シ旨ヲ承ケテ行政各部ノ統一ヲ保持ス
- 第三條 內閣總理大臣ハ須要ト認ムルトキハ行政各部ノ處分又ハ命令ヲ中止セシメ勅裁ヲ待ツコトヲ得
- 第四條 內閣總理大臣ハ其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ閣令ヲ發スルコトヲ得

第四條ノ二 內閣總理大臣ハ所管ノ事務ニ付警視總監、北海道廳長官及府縣知事ヲ指揮監督ス  
 若シ其ノ命令又ハ處分ノ成規ニ違ヒ、公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ、  
 之ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得

第五條 左ノ各件ハ閣議ヲ經ヘシ

- 一 法律案及豫算決算案
  - 二 外國條約及重要ナル國際條件
  - 三 官制又ハ規則及法律施行ニ係ル勅令
  - 四 諸省ノ間主管權限ノ爭議
  - 五 天皇ヨリ下付セラレ又ハ帝國議會ヨリ送致スル人民ノ請願
  - 六 豫算外ノ支出
  - 七 勅任官及地方長官ノ任命及進退
- 其ノ他各省主任ノ事務ニ就キ高等行政ニ關係シ事體稍重キ者ハ總テ閣議ヲ經ヘシ
- 第六條 主任大臣ハ其ノ所見ニ由リ何等ノ件ヲ問ハス內閣總理大臣ニ提出シ閣議ヲ求ムルコトヲ得

第七條 事ノ軍機軍令ニ係リ奏上スルモノハ天皇ノ旨ニ依リ之ヲ内閣ニ下付セララルルノ件ヲ除ク外陸軍大臣海軍大臣ヨリ内閣總理大臣ニ報告スヘシ

第八條 内閣總理大臣故障アルトキハ他ノ大臣臨時命ヲ承ケ其ノ事務ヲ代理スヘシ

第九條 各省大臣故障アルトキハ他ノ大臣臨時攝任シ又ハ命ヲ承ケ其ノ事務ヲ管理スヘシ

第十條 各省大臣ノ外特旨ニ依リ國務大臣トシテ内閣員ニ列セシメララルコトアルヘシ

### ○各省官制通則

(明治二十六年勅令第二百二十二號、改正三一年第二五七號、三二年第二五四號、三三年第一六一號、三五年第六〇號、三六年第二〇八號、四一年第二二四號、大正三年第二〇七號、九年第一四三號)

第一條 本則ハ外務、内務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、遞信及鐵道ノ各省ニ適用ス

第二條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付其ノ責ニ任ス

主任ノ明瞭ナラサル事務ニシテ兩省以上ニ關涉スルモノアルトキハ閣議ニ提出シテ其ノ主任ヲ定ム

第三條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付法律勅令ノ制定、廢止及改正ヲ要スルコトアルトキハ案ヲ

具ヘ閣議ニ提出スヘシ

第四條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付其ノ職權若クハ特別ノ委任ニ依リ省令ヲ發スルコトヲ得

第五條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付警視總監、北海道廳長官、府縣知事ニ指令又ハ訓令ヲ下スコトヲ得

第六條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付警視總監、北海道廳長官、府縣知事ヲ監督ス若シ警視總監、北海道廳長官、府縣知事ノ命令又ハ處分ノ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得

第七條 各省大臣ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

地方官廳奏任官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ内務大臣之ヲ上奏ス

第八條 各省大臣ハ内閣總理大臣ヲ經テ所部ノ官吏ノ敍位敍勳ヲ上奏ス

地方官廳官吏ノ敍位敍勳ハ前條第二項ノ例ニ依ル

第九條 各省大臣事故アルトキハ法律勅令ニ副署シ省務ヲ敷奏シ内閣ノ議ニ列シ及省令ヲ發スルコトヲ除ク外其ノ職務ヲ臨時次官ニ代理セシムルコトヲ得

### 各省官制通則

第十條 各省ニ大臣官房ヲ置ク

大臣官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 機密ニ屬スル事項
  - 二 官吏ノ進退身分ニ關スル事項
  - 三 大臣ノ官印及省印ノ管守ニ關スル事項
  - 四 公文書類及成案文書ノ接受發送ニ關スル事項
  - 五 統計報告ノ調製ニ關スル事項
  - 六 公文書類ノ編纂保存ニ關スル事項
  - 七 本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算、決算並會計ニ關スル事項
  - 八 會計ノ監査ニ關スル事項
  - 九 本省所管ノ官有財産及物品ニ關スル事項
  - 十 其ノ他各省官制ニ依リ特ニ大臣官房ノ所掌ニ屬セシムル事項
- 各省ノ便宜ニ從ヒ大臣官房ノ事務ハ各局ニ於テ又ハ特ニ局ヲ設ケテ之ヲ處理セシムルコトヲ得

第十一條 削除

第十二條 各省中省務ヲ分掌スル爲局ヲ置ク其ノ分掌事務ハ各省官制ニ於テ之ヲ定ム

第十三條 大臣官房及各局ノ分課ハ各省大臣ノ定ムル所ニ依ル

陸軍省海軍省中ノ分課ハ各其ノ省官制ニ於テ之ヲ定ム

第十四條 各省ニ左ノ職員ヲ置ク

次官

局長

參事官

祕書官

書記官

屬

第十五條 各省次官ハ一人勅任トス

第十六條 次官ハ大臣ヲ佐ケ省務ヲ整理シ各局部ノ事務ヲ監督ス

第十七條 削除

各省官制通則

第十八條 各局局長ハ一人奏任トス大臣ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及局中各課ノ事務ヲ指揮監督ス

第十九條 參事官ハ奏任トス大臣ノ命ヲ承ケ審議立案ヲ掌レ  
參事官ハ各省一人ヲ限り之ヲ勅任ト爲スコトヲ得

第二十條 參事官ハ其ノ省ノ便宜ニ從ヒ局課ニ兼勤シ若クハ臨時命ヲ承ケ其ノ事務ヲ助ク  
第二十一條 祕書官ハ奏任トス大臣ノ命ヲ承ケ機密事務ヲ掌リ又ハ臨時命ヲ承ケ各局課ノ事務ヲ助ク

第二十二條 書記官ハ奏任トス大臣ノ命ヲ承ケ大臣官房ノ事務ヲ掌リ又ハ各局ノ事務ヲ助ク  
第二十三條 各省專任祕書官ハ一人トス但外務省ニ於テハ專任二人ヲ置クコトヲ得

第二十四條 大臣官房及局中各課ニ課長一人ヲ置キ高等官ヲ以テ之ニ充ツ課長ハ命ヲ上官ニ承ケ課務ヲ掌理ス

陸軍省海軍省中ノ課長ハ各其ノ省官制ノ定ムル所ニ依ル  
第二十五條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十六條 削除

第二十七條 本則ニ掲ケルモノノ外各省特別ノ職員ヲ置クコトヲ要スルモノハ各省官制ニ於テ之ヲ定ム

參事官、書記官、屬及前項ノ規定ニ依ル職員ノ定員ハ各省官制ノ定ムル所ニ依ル  
附 則 明治二十六年勅令第二百二十二號

第二十八條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス  
附 則 (大正三年勅令第二百七號附則)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
附 則 (大正九年勅令第四百十三號附則)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○樞密院官制及事務規程(明治二十一年勅令第二十二號 改正  
二十三年第二一六號、二十六年第一二〇號)

號、三六年第一一七號、四二年第一八四號、  
大正二年第一三七號、七年第三五五號



第一章 組織

第一條 樞密院ハ天皇親臨シテ重要ノ國務ヲ諮詢スル所トス

第二條 樞密院ハ議長一人副議長一人顧問官二十四人書記官長一人及書記官ヲ以テ組織ス

書記官ハ專任三人トス

第三條 樞密院ノ議長副議長顧問官ハ親任書記官長ハ勅任書記官ハ奏任トス

第四條 何人タリトモ年齢四十歳ニ達シタルモノニ非サレハ議長副議長及顧問官ニ任スルコトヲ得ス

第五條 樞密院ニ議長秘書官ヲ置ク專任一人奏任トス

第二章 職掌

第六條 樞密院ハ左ノ事項ニ付諮詢ヲ待テ會議ヲ開キ意見ヲ上奏ス

一 皇室典範ニ於テ其權限ニ屬セシメタル事項

二 憲法ノ條項又ハ憲法ニ附屬スル法律勅令ニ關スル草案及疑義

三 憲法第十四條戒嚴ノ宣告同第八條及第七十條ノ勅令及其他罰則ノ規定アル勅令

四 列國交渉ノ條約及約束

五 樞密院ノ官制及事務規程ノ改正ニ關スル事項

六 前諸項ニ掲クルモノノ外臨時ニ諮詢セラレタル事項

第七條 削除

第八條 樞密院ハ行政及立法ノ事ニ關シ天皇ノ至高ノ顧問タリト雖モ施政ニ干與スルコトナシ

第三章 會議及事務

第九條 樞密院ノ會議ハ顧問官十名以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開ケコトヲ得ス

第十條 樞密院ノ會議ハ議長之ニ首席シ議長事故アルトキハ副議長之ニ首席ス議長副議長共ニ

事故アルトキハ顧問官其席次ニ依リ首席スヘシ

第十一條 各大臣ハ其職權上ヨリ樞密院ニ於テ顧問官タルノ地位ヲ有シ議席ニ列シ表決ノ權ヲ

有ス又各大臣ハ委員ヲ差シテ會議ニ出席シ演述及説明ヲ爲サシムルコトヲ得但表決ノ數ニ加

ラス

第十二條 樞密院ノ議事ハ多數ニ依リ之ヲ決ス但可否平等ノ場合ニ於テハ會議首席ノ決スル所

ニ依ル

第十三條 議長ハ樞密院ニ屬スル一切ノ事務ヲ總管シ樞密院ヨリ發スル一切ノ公文ニ署名ス

樞密院官制及事務規程(組織、職掌、會議及事務)

副議長ハ議長ノ職務ヲ輔佐ス

第十四條 書記官長ハ議長ノ監督ヲ受ケ樞密院ノ事務ヲ管理シ一切ノ公文ニ副署シ會議ニ付スヘキ事項ヲ審査シテ報告書ヲ調製シ會議ニ列シ辨明ノ任ニ當ル但表決ノ數ニ加ラス  
書記官ハ會議ニ於テ議事ヲ筆記シ及書記官長ノ職務ヲ輔佐シ書記官長事故アルトキハ書記官之ヲ代理ス

前項ノ筆記ハ出席員ノ姓名會議ノ事件質問答辨及議決ノ要旨ヲ記載スルモノトス

第十四條ノ二 議長秘書官ハ議長官房ノ事務ヲ掌ル

第十五條 特別ノ場合ヲ除クノ外豫メ審査報告書ヲ調製シ其會議ニ必要ナル書類ト共ニ之ヲ各員ニ配達シタル後ニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

議事日程及報告ハ豫メ各大臣ニ通報スヘシ

樞密院事務規程

第一條 樞密院ハ勅命ニ由リ會議ニ下付セラレタル事項ニ意見ヲ述フ

第二條 樞密院ハ帝國議會若クハ其一院又ハ官署又ハ臣民ヨリ請願上書其他通信ヲ受領スルコトヲ得ス

第三條 樞密院ハ内閣及各省大臣トノミ公務上ノ交渉ヲ有シ其他ノ官署帝國議會又ハ臣民トノ間ニ文書ヲ往復シ又ハ其他ノ交渉ヲ有スルコトヲ得ス

第四條 議長ハ樞密院ニ到達スルノ事項ハ書記官長ニ下付シテ之ヲ審査セシメ及會議ニ付スヘキ事項ノ報告ヲ調製セシム

議長ハ必要ナリト認ムル場合ニ於テ親ラ報告ノ任ニ當リ又ハ顧問官一人若クハ數人ニ之ヲ任スルコトヲ得ヘシ

第五條 審査報告書ハ報告員ヨリ之ヲ議長ニ提出スヘシ

臨時緊急ノ場合ニ於テハ口頭ヲ以テ報告ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ其要領ヲ簡短ニ第八條ニ載スル件名簿ニ記入スヘシ

第六條 議長ハ審査報告書ヲ整頓スヘキ期日ヲ限定スルコトヲ得報告ハ成ルヘク速ニ之ヲ調製シテ遷延スルコトヲ許サス

内閣ハ至急ヲ要スル事件ニ付其由ヲ通知シ及其會議ノ期日ヲ限定スルコトヲ得

第七條 審査報告書ハ附屬文書ト共ニ其會議ヲ開クノ日ヨリ少ナクモ三日以前ニ之ヲ各員ニ配達スヘシ

樞密院官制及事務規程

第八條 件名簿ハ會議ノ期日ノ順序ニ從ヒ之ヲ記入スヘシ件名簿ニ登載スヘキ事項ハ第一事件ノ性質第二會議ノ前文書配達ノ日時第三其會議ノ期日等トス

會議ニ付スヘキ各件ニ就テハ前項ニ同シキ議事日程ヲ調製シ其會議ヲ開クノ日ヨリ三日以前ニ各員ニ通報スヘシ此通報ハ會議ノ招狀ヲ兼ヌルモノトス

第九條 樞密院ノ會議ノ日時ハ議長之ヲ定ム但各大臣ハ其日時ノ變更ヲ求ムルコトヲ得

第十條 樞密院ノ會議ハ左ノ規程ニ循山シ議長若クハ副議長之ヲ整理スヘシ

議長ハ書記官長ヲシテ其事件ヲ辯明セシメ次テ各員ヲ自由ニ討論セシム何人タリト雖モ議長ノ許可ヲ受クルニ非レハ發言スルコトヲ得ス議長ノ討論ニ參與スルハ其自由ニ屬スルモノトス討論既ニ盡ルノ後ハ議長ヨリ問題ヲ定メ表決ヲ爲サシム

議決ノ結果ハ議長之ヲ言明スヘシ

第十一條 議事日程ニ掲載シタル事件ノ會議其當日ニ結了セサルトキハ之ヲ他日ニ延會スルコトヲ得此場合ニ於テハ更ニ常例ノ定式ヲ踐行スルコトヲ要セス

第十二條 樞密院ノ會議ノ意見ハ書記官長又ハ書記官表決ノ結果ニ依リ之ヲ起草シ議長ノ檢閱ヲ請フヘシ此意見ニハ理由ヲ附シ重要ノ事件ニ就テハ討論ノ要領書ヲ附屬スヘシ

反對ノ議論ヲ主持シタル出席員ハ其表決ト其理由トヲ議事筆記理由書又ハ要領書ニ記入セラレシコトヲ求ムルコトヲ得

第十三條 前條ノ意見ハ議長ヨリ天皇ニ上奏シ同時ニ内閣總理大臣ニ通報スヘシ

第十四條 樞密院ノ會議ノ議事筆記ハ議長及書記官長又ハ出席書記官之ニ署名シ其正確ヲ表明スヘシ

附 則 (大正二年勅令第三百三十七號附則)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ樞密顧問官ノ職ニ在ル者ハ其ノ定員ノ改正ニ拘ラス在任ス

附 則 (大正七年勅令第三百五十五號附則)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ○衆議院事務局官制

明治二十三年勅令第百二十二號、改正二四年  
 第一〇〇號、第二〇七號、三〇年第三五〇號  
 三一年第三〇八號、三六年第二五六號、四三  
 年第一三三號、大正二年第一三六號、五年第  
 一四九號、七年第一四八號、八年第一七九號  
 一九一四年第三二號、一〇年第二一二號

第一條 衆議院事務局ニ左ノ職員ヲ置ク

書記官長 一人

書記官 專任 四人

速記士 一人

守衛長 一人

屬 專任 十七人

速記技手 專任 三十九人

守衛副長 專任 二人

第二條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ局中一切ノ事務ヲ監督ス

局中ノ分課及職員ノ配置ハ書記官長之ヲ定ム

第三條 書記官ハ書記官長ノ指揮監督ヲ承ケ議事記録筆記印刷庶務會計警務等ニ關スル事務ヲ

分掌ス

第四條 書記官長故障アルトキハ上席書記官其ノ職務ヲ代理ス

第四條ノ二 速記士ハ奏任トス上官ノ指揮監督ヲ承ケ速記ニ關スル事務ヲ掌ル

第四條ノ三 守衛長ハ奏任トス上官ノ指揮監督ヲ承ケ守衛副長以下ヲ部署シ警務ヲ掌ル

第五條 屬及速記技手ハ判任トス書記官長ノ定ムル所ニ依リ各其ノ事務ニ從フ

第六條 削除

第七條 守衛副長ハ判任トス守衛長ヲ助ケ守衛ヲ指揮シ守衛長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理

ス

### ○衆議院事務局分掌規程

(明治三十三年三月十九日決定、改正大  
 正五年六月一日、七年四月十二日、同年  
 十二月七日)

第一條 衆議院事務局ニ左ノ六課ヲ置ク

祕書課

議事課

衆議院事務局分掌規程

委員課

速記課

庶務課

警務課

第二條 秘書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 議事日程發言通告及諸般ノ報告ニ關スル事項
- 二 議案類、請願書及質問書ノ受理、議決議案ノ奏上送付ニ關スル事項
- 三 議員ノ闕席、請暇、辭職、補闕選舉請求ニ關スル事項
- 四 議長指名ノ委員選定及辭任ニ關スル事項
- 五 議員名籍録及議院要覽ノ編纂ニ關スル事項
- 六 正副議長ノ公印保管ニ關スル事項

第二條ノ二 議事課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 本會議ニ關スル事項
- 二 議案類ノ調査ニ關スル事項

三 議事録及決議録ノ編製ニ關スル事項

四 先例彙纂議事摘要及事務報告書ノ編纂ニ關スル事項

第三條 委員課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 委員會ノ會議及部會ニ關スル事項
- 二 委員會及部會ノ文書調製、會議録編製ニ關スル事項
- 三 議事綜覽及委員會先例彙纂ノ編纂ニ關スル事項
- 第四條 速記課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

本會議及委員會會議ノ速記及速記録編製並速記者養成ニ關スル事項

第五條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 職員ノ身分進退及採用試験ニ關スル事項
- 二 普通公文案ノ起草及調査ニ關スル事項
- 三 普通公文書類ノ受理ニ關スル事項
- 四 衆議院公報ノ編製ニ關スル事項
- 五 官報報告及統計ニ關スル事項

衆議院事務局分掌規程

- 六 會計用度及官有財産保管ニ關スル事項
  - 七 營繕ニ關スル事項
  - 八 公文書類ノ出納保管ニ關スル事項
  - 九 内外圖書記録新聞雜誌ノ購入交換並出納保管及參考書編纂ニ關スル事項
  - 十 議案類、請願文書表、委員會速記録、衆議院公報等ノ配布ニ關スル事項
  - 十一 官印保管ニ關スル事項
  - 十二 他課ノ分掌事務ニ屬セサル事項
- 第六條 警務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 議院内部ノ警察、取締及衛生ニ關スル事項
  - 二 傍聽券及徽章ニ關スル事項
  - 三 傭人ノ採用及監督ニ關スル事項
  - 四 替類ノ接受發送及面會人ニ關スル事項

### ○圖書借覽規程

#### 第一章 總則

第一條 本院所管ノ圖書ハ兩院議員國務大臣政府委員及兩院判任官以上ノ職員ノ外借覽スルコトヲ得ス但シ庶務課長ノ許可ヲ得タル者ハ此ノ限ニ在ラス

#### 第二章 閱覽室

第二條 閱覽室ニ於テ圖書ヲ借覽セントスル者ハ其ノ名刺ニ書名ヲ記シ之ヲ差出スヘシ  
前項ノ借覽者ハ第三條ノ手續ヲ爲シタル上ニ非サレハ其ノ圖書ヲ閱覽室外ニ携帯スルコトヲ得ス

#### 第三章 借覽

第三條 圖書ヲ借覽セントスル者ハ圖書借覽證用紙ニ書名冊數及番號ヲ記シ署名捺印スヘシ  
借覽シタル圖書ハ之ヲ東京市外ニ携帯スルコトヲ得ス

第四條 各課ニ於テ常備ヲ要スル圖書アルトキハ其ノ物品取扱主任ヲシテ借用ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第五條 圖書ノ借覽ハ一名五部ヲ超ユルコトヲ得ス  
但シ庶務課長ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

#### 圖書借覽規程

第六條 圖書借覽期限ハ三十日ヲ超ユルコトヲ得ス

但シ庶務課長ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七條 第四條ノ場合ニハ前二條ノ規定ヲ適用セス

第八條 借覽圖書ハ其ノ期限中ト雖トモ必要ノ場合ニ於テハ之ヲ返納セシムルコトアルヘシ

第九條 圖書借覽者ニシテ其ノ資格ヲ失ヒタルトキハ直ニ其ノ圖書ヲ返納スヘシ

第十條 第六條ノ期限ヲ經過シ又ハ前二條ノ場合ニ返納セサルモノアルトキハ一週間内ニ返納

スヘキ旨ヲ催告スヘシ

第四章 亡失及毀損

第十一條 借覽者若ハ閱覽者ニ於テ其ノ圖書ヲ亡失シ又ハ毀損シタルトキハ同一ノ圖書ヲ代納

セシム若同一圖書ヲ得ル能ハサルトキハ相當ノ代價ヲ辨償セシム

第十二條 正當ノ理由ナクシテ第十條ノ催告ニ應セサル者ハ其ノ圖書ヲ亡失シタルモノト見做

ス

衆議院要覽 上卷終

大正十二年一月十七日印刷

大正十二年一月二十日發行

衆議院事務局

5232

東京市京橋區元數寄屋町三丁目七番地

印刷者 國井五郎

2603  
11







